

かね も おろかな 金持ち

ねる^{ようい}用意をしながら、デービッドが^{かな}悲しそうに^い言いました。「おじいちゃん。だれも、ぼくと^{あそ}いっしょに遊んでくれないんだ!」

「それはまた、どうしてだい、デービッド?」 おじいちゃんが^き聞き返しました。

「あのね、いっしょに^{あそ}遊ぼうってだれかをさそうと、その^こ子はいつも、ぼくが^{あそ}遊びたいおもちゃで^{あそ}遊びたがるんだ。ぼく、みんなと^{あそ}遊びたいけど、^{じぶん}自分のおもちゃでも^{あそ}遊びたいんだ。どうしておもちゃを^か買さないとだめなの?」

おじいちゃんは^{かんが}ちょっと^い考えると、こう^{もんだい}言いました。「その^{かいけつ}問題を^い解決するのに^{やくだ}役立ち^{はなし}そうないいお話があるよ。」

「^{せいしょものがたり}聖書物語の本を^{ほん}持^もっておいで。ねる^{まえ}前に、その^{はなし}お話を^ししてあげよう。」

デービッドは、^{ほん}すぐに本を^と取^とってきました。そして、おじいちゃんの^{はなし}となりに^よすわると、おじいちゃんは^{はなし}お話を^よ読み始めました。

＊

^{むかしむかし}昔々、ある^{かねも}ところに、^{のうじょうぬし}金持ちの^{のうじょうぬし}農場主が^いいました。この^{のうじょうぬし}農場主を、^{りっちゃん}リッチーさんと^{よぶ}よぶことに^ししましょう。リッチーさんは、とても^{おお}大きな^{のうじょう}農場を^も持^もっていました。

ある^{とし}年の^{こと}こと、^{はたけ}畑は^{だいほうさく}大豊作になり、リッチーさんの^{ところ}所で^{はたら}働^{ひと}いている人たちは、とても^{しゅうかく}たくさんの^か収穫を^と刈^とり取りました。



リッチーさんは、^{ろうどうしや}労働者たちが^{こくもつ}穀物の
^{はい}入った^{ふくろ}袋を^{ちゆういぶか}注意深く^{なや}納屋に^{はこ}運び入れる
^{ようす}様子を、じっと^{みまも}見守っていました。

リッチーさんが^{こくもつぶくろ}穀物袋の山に^{やま}見とれて
いると、^{きんじよ}近所の人が^{ひと}通りかかって^{とお}言いました。
「今年は、ものすごい^{しゅうかく}収穫がありましたね！」
「^{まつた}全くだ！^{なに}何しろ、^{さくもつ}作物を^{そだ}育てる
^{とち}土地が^{ひろ}広いからう！^{まつた}わしは、^{こくもつ}全くもって
^{しゆくふく}祝福されておる！^{かねも}金持ちだぞ！」

リッチーさんが^{じぶん}自分が^{かねも}どんなに金持ちかを
じまんしていると、^{まず}まず^{ろうどうしや}貧しい労働者が^き来て
たずねました。「^{しゅじんさま}ご主人様。^{ことし}今年は
^{ほうさく}豊作でしたから、^{こくもつ}いくつかの穀物を、
わたしたちの^{かぞく}家族のために^わ分けていただく
ことはできないでしょうか？」

「^{なん}何だと？^{なん}そりゃできん！^{なん}これはすべて、
わしのために^と取っておかねばならんからな！」
リッチーさんが^{おおごえ}大声で^い言いました。

^{まず}まず^{ろうどうしや}貧しい労働者は^{なや}納屋を見、それから
リッチーさんの方に^{ほうむい}向いて^い言いました。
「で、ですが、^{しゅうかく}収穫が^{おおす}多過ぎて、^{しゅじんさま}ご主人様の
^{なや}納屋には^{ぜんぶ}全部^{はい}入り切れませんよ！」

「^{たわけた}たわけたことを！^{はい}入るに^き決まっておる。」
とリッチーさんは^{こた}答えました。

「そうですね、でも、2、3袋^{ふくら}いただいても
大^{たい}して変^かわりは^{おも}ないと思^{おも}うのですが。
わたしたちは一^{いっしょう}生^{めい}けん命^{はたら}働^{はたら}いているのに、
非^ひ常^{じょう}に貧^{まず}しいのです。」

「だめだ、だめだ！ 穀^{こくもつ}物を^{こくもつ}やるわけには
いかん！ わしには全^{ぜんぶ}部^{ひつよう}、必^{ひつよう}要^{ひつよう}なのだ。」

そう言^いうと、リッチーさんは行^いってしまいました。
その日^ひの午^ご後^ごのこ^ことです。労^{ろうどうしや}働^{どうしや}者^{しや}たち^{しや}が
穀^{こくもつ}物^{ふくら}の袋^{なや}を納^な屋^やにぎゅうぎゅうつめこんだ^{あと}後^{あと}も、
入^{はい}り切^きらなかつた穀^{こくもつ}物^{ふくら}の袋^{なや}が、まだた^たくさ^{くさ}ん
あ^ありました。

「何^{なん}というこ^ことだ！ 労^{ろうどうしや}働^{どうしや}者^{しや}が言^いって^いいた
通^{とお}りだぞ。収^{しゅうかく}穫^{かく}が多^{おほ}くて、全^{ぜんぶ}部^{なや}納^な屋^やに入^{はい}
切^きらないな^なんて！ 一^{いったい}体^{たい} どうし^{どうし}たらいい^{いい}んだ？」

リッチーさんは、だ^だん^{だん}心^{しんぱい}配^{ぱい}にな^なって^てき^きて
し^しま^まい^いま^ました。「大^{たいへん}変^{へん}だぞ。穀^{こくもつ}物^{ひと}を人^{ひと}に
あ^あげ^げな^なく^くては^はな^なら^らな^なく^くな^なる^るか^かも！」リッチーさんは
ギョ^{ぎょ}ッ^ッと^とし^しま^ました。・・・が、あ^ある^るこ^ことを
思^{おも}い^いつ^つき^きま^まし^した。

「そ^そう^うだ！ い^いい^いこ^こと^とが^があ^ある^る。も^もつ^つと^と大^{おお}き^きな
納^な屋^やを^を建^たて^て、自^じ分^{ぶん}の^{もの}物^{もの}を^{ぜんぶ}全^{ぜんぶ}部^ぶし^しま^まえ^える^るよ^よう^うに
し^しよう。そ^そう^うす^すれ^れば、だ^だれ^れに^にも^もあ^あげ^げず^ずに
す^すむ^むぞ。」





デービッドが言いました。「とても欲張りな
人だね！ 自分のために働いている人たちは
とても貧しくて、自分にはとてもたくさんの
穀物があつたのに、全然あげようとしなかった
なんてね。」

おじいちゃんも言いました。「全くな。本当に
欲張りな男だね。だがその夜、神様は
リッチーさんにこう言われたんだ。

『おろか者め！ 今夜、おまえは死ぬのだぞ。
おまえがためこんだ物は、一体どうするのかね？』

神様がそう言われると、その欲張りな
農場主は、ねむっている間に死んでしまった。

そして、自分の富はすべて、後に残して
いかなければならなかったんだ。」

「彼は利己的で欲が深かったから、神様が
すべてを取り去ってしまったんだね。」と
デービッド。

「その通り！ 持っていた物をほかの
人たちに分けてあげる代わりに、自分のために
もっとためこもうとして、もっと大きな納屋を
建てようとしたからね。金持ちでいることや、
納屋をたくさん持っていることは、何も悪い
ことじゃない。まちがっていたのは何だと
思うかい？」 おじいちゃんがデービッドに
たずねました。

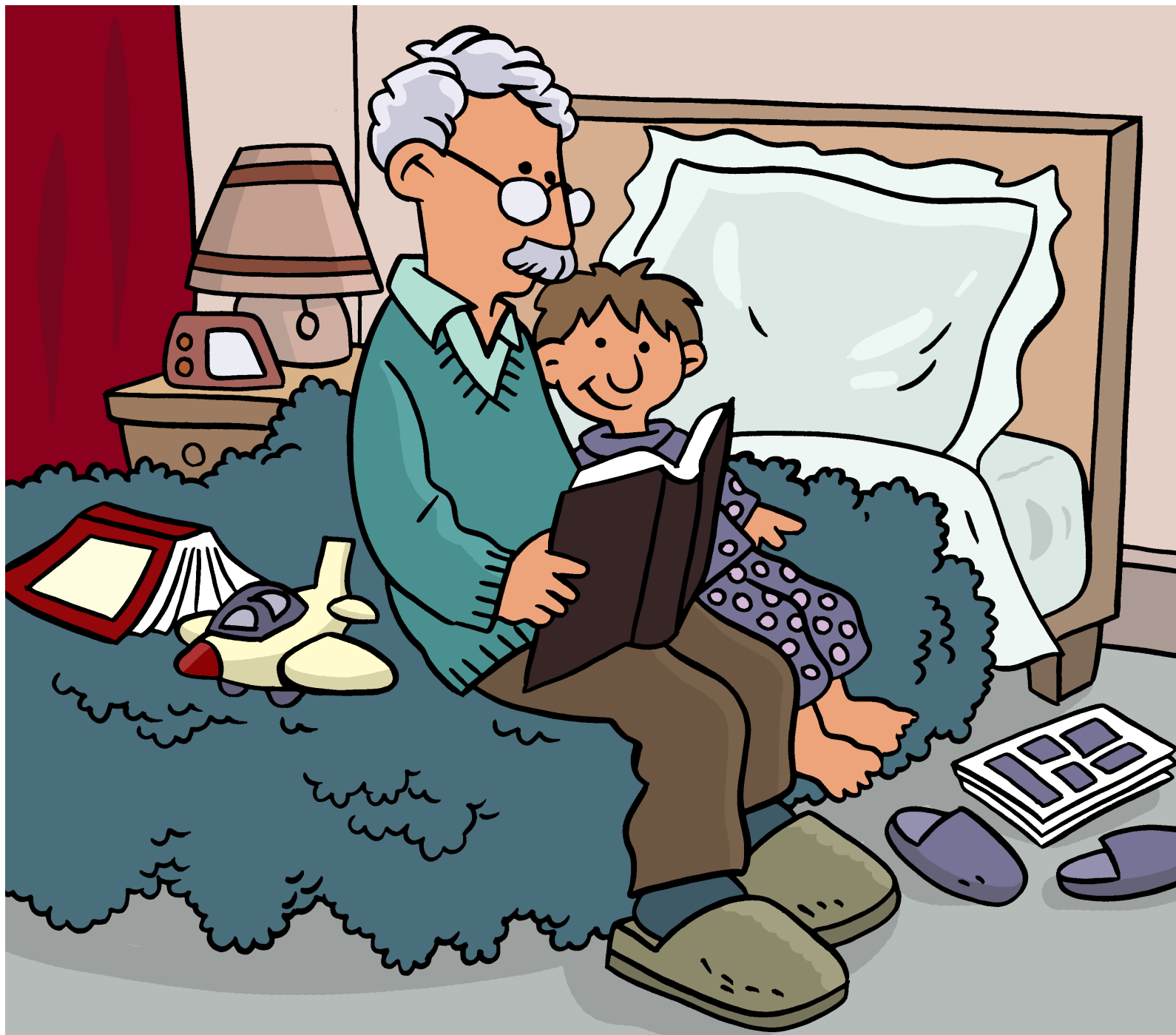
「^{わあ}分け合^あいたがらなかった
ことかな。こまっている
^{ひと}人たちに、これっぽちも
あげようと しなかったものね。」
と デービッドが ^{こた}答えました。

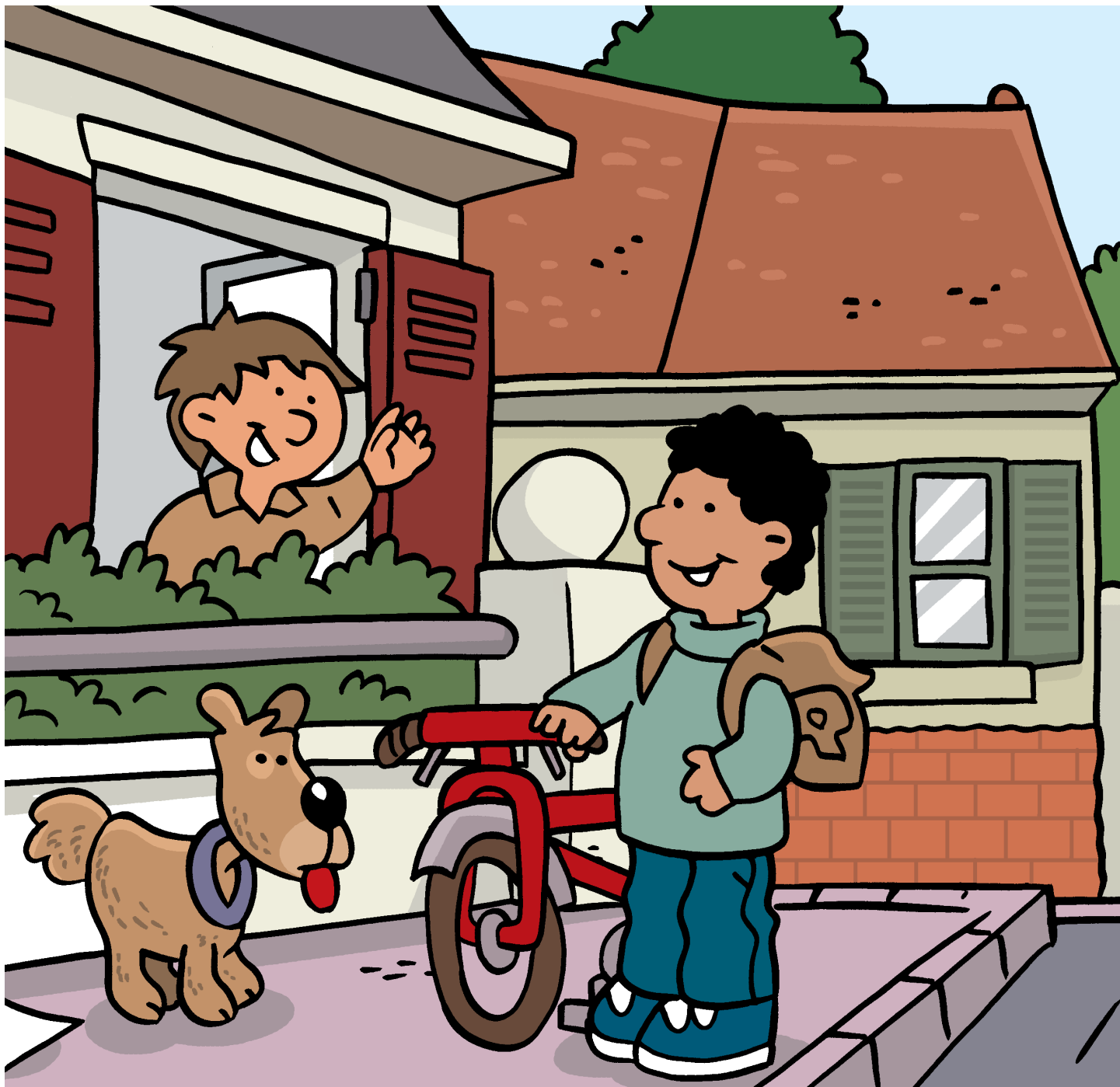
「その ^{とお}通りだ！」
おじちゃんが ^い言いました。

「おじいちゃん。ぼく、
たくさんのおもちゃを
^も持ってるよね。だけど、だれも
ぼくと ^{あそ}遊びたがらないんだ。」と
デービッド。

「おまえは、おもちゃは
たくさん ^も持っているが、それは
きっと、^{かみさま}神様が おまえに ほかの
こ^こ子たちと ^{わあ}分け合^あってほしくて、
そんなにたくさん ^{くだ}下さった
せいだろう！ わすれちゃ
いけないよ。『^う受けるよりも、
^{あた}与えるほうが ^{さいわ}幸い』なんだ。
^{あた}与える ことによつて ^{うしな}失う ことは
ないんだよ！」

*





つぎ ひ 次 の 日 の こ と で す。 友 だ ち の ト ミー が、
じてんしゃ 自転 車 で デー ビッド の いえ まえ とお 家 の 前 を 通 り
か か り ま し た。

「やあ、トミー！ うちで遊んでいかない？」と、
デービッドが声をかけました。

トミーはおどろいた様子でした。でも、
うれしそうに返事しました。

「うん！ じゃあ、お母さんに言ってくるね。」

トミーがもどって来ると、デービッドは
トミーに自分のおもちゃ箱を見せて
言いました。「遊びたい車を選んでいいよ。
そしたら道路を作って、その上を走らせて
遊ぼう。」

「本当？ 遊びたい車をぼくが最初に
選んでいいの？」トミーがたずねました。

「うん、いいよ！」デービッドは
にっこりと笑って言いました。

「じゃあねえ……。パトカーと消防車で
遊びたいな。」とトミー。

それは自分のお気に入りの車でしたが、
デービッドは言いました。「オッケー！ じゃ、
ぼくは救急車とレッカー車にするよ。
さあ、道路を作ろう！」

デービッドはうれしそうに笑って、
トミーと遊び始めました。友だちと
遊べて、うれしかったのです。

しばらく遊んだ後で、デービッドの
お母さんが来ました。トミーの
お母さんから電話があって、夕食の
時間だから帰って来なさいという
ことでした。

「帰る前に、おもちゃを片付けるのを
手伝うよ。」とトミーが言いました。

デービッドは「ありがとう!」と言って、
こう付け加えました。「明日もおいでよ。
そしたら、またいっしょに遊ぼう。」

「それはすごいなあ! ありがとう、
デービッド。君はいい友だちだね。
今日は楽しかったよ。明日は、ぼくの
レゴと車も持ってくるね。そしたら、
もっとたくさんの車で遊べるでしょ。
そして、車が走れる町を作り始める
こともできるじゃない?」

「それは楽しそうだね。君も、すごく
いい友だちだよ、トミー。じゃ、明日ね!」

トミーは自転車に乗って、家に
帰っていきました。



夕食の時にデービッドがお父さんとお母さんに言いました。「今日ね、おじいちゃんが昨日
言っていたことが分かったんだ。与えることで失うことはないってね。前は、おもちゃが全部
ないと楽しくないと思ってたから、ほかの子におもちゃを貸したくなかったんだ。だけど今日は、
貸してあげたら、友だちは喜んでくれたし、ぼくもすごく楽しかったんだ。全部の車がなくてもね！」
「ほかの子と分け合うっていう大切なことを学んだんだね。立派だよ、デービッド。おじいちゃんが
言った通りだね。与えることで失うことはないんだね！」とお父さんも言いました。

